

Beaute Verte 2024

Vol.3



国内クリーンビューティ 構築の第1歩へ

- 2023年度活動レビュー ●長井美有紀の最新サステナビリティ研究
- Focus!:ファストリ、サプライチェーン改革で取引先を集約
- Special Information :
年間たったの2万〜気軽に参加できるJSCF新会員制度登場
- 2024年は国内クリーンビューティ構築の第1歩を！
- 2024年度取り組み紹介／2024年度の主な活動予定

Greatest thanks for corporation for achieving sustainability
in cosmetics industry.





JSCEF

Japan Sustainable Cosmetic Promoting Foundation

日本サステナブル化粧品振興機構（JSCEF）は、2024年1月よりオフィスを移転いたしました。

住所地：港区北青山1丁目（レゾナンス青山内）

最寄駅：青山一丁目駅（東京メトロ半蔵門線/都営大江戸線）

お近くでご予定の際は、ぜひご連絡ください！



当団体代表・サステナブル美容の専門家

長井美有紀のサイト

▶ <https://sustainableexport.wordpress.com>



Sustainable Beauty

For Generated Beauty Future,
Supporting Sustainable Development and Use.

サステナブルビューティーを提唱する専門家 長井美有紀

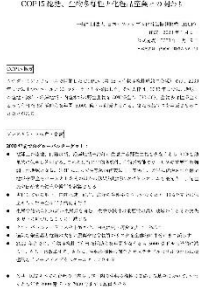
About



2023年度活動レビュー

2023年は、ようやくアフターコロナの雰囲気に戻り、業界内では少しずつこれまでの化粧品マーケティングが盛んに。JSCFでは、オンライン/オフラインでタッチポイントを増やし、企業の方・一般の方もサステナブルアクションへのヒントを教示できた一年だった。

【公式文書発表】COP15総括、生物多様性と化粧品産業との関わり



2022年12月にカナダ・モントリオールにて開催されたCOP15（第15回生物多様性条約国会議）で、**生物多様性に関する新しい枠組みが採択**。その**4つのゴールと23のターゲット**をいち早く解説し、化粧品産業との関わりや課題を提唱する内容として、公式文書を発表した。

□次回のCOP16は、2024年11月コロンビアにて開催予定

長井が共同論文を発表 オンラインセミナーも開催



代表長井の“**産業×生物多様性**”研究の集大成？！として、**福井大学大学院准教授高井氏と、「サステナブル化粧品に関する認証と生物多様性との関わり」を共同発表**（福井大学紀要/2023年1月刊行）
論文に関わるレビューや最新情報などをシェアするオンラインセミナーを2月に開催した。セミナーには、業界関係者や研究者、専門家などが多数参加し、サステナブル認証や規制について、生物多様性と化粧品産業との関りを解いた。

年会報誌『Beaute Verte』 Vol.2刊行

JSCFの年会報誌『Beaute Verte』Vol.2が刊行。2022年活動まとめ、大手ロレアル社のインタビュー記事などの注目記事、来年度の取り組みなど紹介した。



共同論文執筆
サステナブル美容の専門家
長井美有紀

「化粧品のサステナビリティ達成においては、課題がたくさん残る。この数年を通して、化粧品の環境課題、特に生物多様性やその関りについて改めて明らかにし、提唱しました。共同論文刊行に際し、ご尽力いただいた共同研究者の高井愛子先生には、感謝申し上げます。今後も、多方面で研究を進めていき、化粧品の国内サステナビリティ達成にむけて尽力したいと考えております。」

農水省「食料・農業・農村基本法改正に向けた意見交換感」に提言提出



オーガニック農業を推進する団体からの声がかけて、**同意見交換会に参加し、認証の重要性について提言した**。オーガニック農業は化粧品産業にもよく関わり、1月に刊行した**共同論文をひっさげ、まず国内有機認証の認知度が少ないこと、また消費者教育の重要性について訴えた**。

【公式文書発表】 UVケア製品に関するガイドライン

2022年のCOP27などで改めてフォーチャーされた**サンゴの環境問題**において、化粧品（UVケア製品）との関連性を改めて言及された。それを受けて、改めての注意喚起として、**企業・一般向けにガイドラインを発表した**。



長井美有紀の最新サステナビリティ研究

化粧品に限らず、食品や日用品などの一般的な加工産業では、近年**グリーンサプライマネジメント**が求められている。特に**サプライチェーン**においては「調達」の部分で一番環境負荷が高い。コストとの兼ね合いを重視しながら、産業の持続可能性を図るために研究を重ねる。（2024年3月海外学会発表予定）



JSCFとして、NGO団体「消費から持続可能な社会をつくる市民ネットワーク (SSRC)」に参画



2023年度はアパレル企業10社を調査／プレイベントに長井が登場

兼ねてからSSRC参加団体とのリレーションを受けて、2023年度JSCFとして同団体に加盟。エンカル専門家団体が「企業のエンカル通信簿」など市民目線で企業のサステナビリティを調査し、発表する（発表会は24年3月予定）。10月にはアパレルの環境課題などをあさるプレイベントに長井がサステナブル専門家として登場した。

オープンセミナー第2弾 5/22生物多様性の日 産業における生物多様性の配慮とは？



5月22日の「生物多様性の日」に合わせ、**生物多様性と産業**についてのオープンセミナー第2弾を行った。これまでのグローバル動向まとめや、共同論文発表のセミナー後のアップデートなど共有した。

オープンセミナー第3弾 6/8 世界海洋デー 化粧品と海の生物多様性

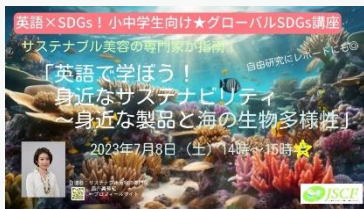


5/22のセミナーの海編として、6月8日の世界海洋デーに合わせて、「**化粧品と海の生物多様性**」を解説するオープンセミナー第3弾を開催。海の世界環境課題の一般概論から化粧品産業との関わりや課題抽出などを共有した。



セミナー時に公表した昨年されたCITES (ワシントン条約) CoP19で新たにサメ54種がレッドリストに掲載され、化粧品産業では関りがあるかどうかについて、公式発表をサイト内にて更新。

子供向けSDGsグローバル講座を プレ開催



夏休み自由研究ニーズに対応するべく、全国の小・中学生を対象に、英語で学ぶSDGsの基礎講座を開催

サステナブルマガジン 「オルタナ」に執筆



代表・長井が、専門家として「オルタナ」に寄稿。グローバルのムードも起因して、国内では「サーキュラー＝プラスチック」と誤解されやすいという状況を鑑み、真のサーキュラーエコノミーとは何かを論述。

『真の「循環経済」はパッケージ戦略だけではない』
2023年8月3日 著・長井美有紀
※記事のポイント

- ①企業のサーキュラーエコノミー戦略ではパッケージに関するものが目立つ
- ②しかし化粧品業界では海外製品が9割を占め、国内視点だけの実現は難しい
- ③サプライチェーンを含めた産業全体で取り組むことが重要だ

週刊粧業にてコラム連載スタート



業界専門紙「週刊粧業」にて、代表・長井による月1コラム連載がスタート！
9月より、随時本紙とサイトのほうにて更新中。

◎化粧品の環境・社会課題を知る『クリーンビューティー講座』



オーガニックライフスタイル EXPO2023に協賛&出展



9月に開催された国内最大級のオーガニック展示会「オーガニックライフスタイルEXPO」に、今年もメディア協賛&ブース出展。会場入り口には、デジタルサイネージ (広告) を掲載。出展ブース内では、化粧品の環境・社会課題についてのミニレクチャーも実施。コロナ明けということもあり、過去最多の来場者数に。

▶デジタルサイネージ
今年は、オンラインサロン「クリーンビューティーアカデミー」として協賛



第5・6回サステナブルビューティー協議会を開催



JSCF定例イベントのサステナブルビューティー協議会をオンライン開催。

- ・第5回 2023年4月27日
- ・第6回 2023年10月26日

政府への提言作成のため、両会議にて新制度について協議。2024年度提言提出にむけて、引き続き協議を続ける。

▶次回のサステナブルビューティー協議会は、2024年4月下旬ごろを予定

第132回つくば人間学講座 「身近なコスメから始められる！サステナブルアクション」講演



代表・長井による一般向け講演会にて、環境問題総論や化粧品などその周辺業界でのサステナブルアクションのススメを伝授。

日時：2023年11月18日（土）
場所：つくば市アルスホール
主催：茨城県つくば市

つくば市の消費者は、環境・サステナビリティに興味がある方が多い印象だった。

【Column更新】 COP28総括と業界の今後

2023年11月30日からUAEにて開催されていたCOP28の総括や専門的解説、化粧品業界での今後を指南するコラムをHPのInformation欄にて更新



Focus!:ファストリ、サプライチェーン改革で取引先を集約 <日経ESG 2023年11月14日>

化粧品企業とは異なるが、ファストファッションの最大手ファーストリテイリングが、原材料の調達まで遡って指定した取引先からの調達へ切り替えている。商品の安定供給と環境・社会課題の解決を両立するサプライチェーンを構築していくという。原材料の調達から商品の製造、輸送、販売までサプライチェーン（供給網）全体に関わる環境や社会課題への対応が、企業の持続的成長を左右するようになりつつある。脱炭素が喫緊の課題となり、「スコープ3」と呼ぶサプライチェーンからの温室効果ガス排出量の削減が求められている他、人権の尊重も強く問われるようになった。対策が不十分な場合、顧客や投資家を失うことになりかねない。そうした中、ファーストリテイリングがサプライチェーンの改革を加速させている。主力のユニクロ事業は海外売上高比率が6割を超え、成長をけん引している。高品質の商品をバランスの取れた価格で、販売動向に応じてタイムリーに供給できる体制を強化する。（同サイトより引用）

ファッション業界では化粧品よりもサプライチェーンの川が長く、原料や生産も海外に頼ることが多い。サプライチェーンを集約することにより、気候変動や生物多様性への課題解決へとつながる。化粧品業界では、外資系大手しか、サプライチェーンの集約を行っていない（自社調べ）。他業界であっても、先進事例として、施肥参考にしたい。

これまでの企業会員のほかに、新たに年間2万から参画できる「援助会員」システムが2024年より新登場！気軽に参加でき、最先端の「化粧品×環境」の情報を得ることができる。また、これまでの企業会員を「正会員」とし、特別プログラムや個別コンサルティングのご提供など、引き続き充実したサポートを行っていく。

JSCF企業会員制度「正会員」・「援助会員」のご案内

JSCF会員への入会基準は、化粧品業界のさらなる発展やサステナブルな取り組みを推進したいと考える企業が参加でき、化粧品企業からステークホルダーとなるその周辺企業まで入会できる。また、年ごとに「正会員」・「援助会員」を選べることができる。

■JSCFの企業会員入会のメリット

1. 最先端の化粧品×環境の情報を得る
2. コスト、投資家、ブランディングなど様々な観点での持続可能性のヒントを得る
3. 会員企業同士のコミュニケーションやマッチングに
4. 特別プログラムや個別コンサルティングなど、専門的な戦略を得る（正会員のみ）
5. 一般への継続的なプロモーションを図る
6. 独自認定制度の付与（今後予定） など！

■「正会員」と「援助会員」

	正会員（＝現会員制度）	援助会員（New）
入会条件	化粧品業界のさらなる発展やサステナブルな取り組みを推進したい方	
年会費	1口10万（税別）、1口以上	2万（税別）～ *企業規模より変動
SB協議会への参加	○	○
SB協議会での議決権	○	×
議事提案	○	×
セミナー・イベント等への参加	○	○（一部有料の場合あり）
メルマガや年会報誌など（情報収集）	○	○
サステナブルビジネスノウハウのご提供やご紹介	○	×
特別協賛プログラムのご提供	○（協賛金3口以上必須）	×
個別コンサルティング	○	×
一般会員へのプロモーション	○	○

詳細は、<https://sustainable-cosme.org/membership/> へ。

（一般会員の内容に変更はナシ）

お問い合わせ・ご入会はコチラから ▶▶▶



2024年は国内クリーンビューティー構築の第1歩を！

Green
Creation
for Futre...

2024年度の取り組み紹介



国内クリーンビューティーの達成には、課題が多く残る。表面的な施策として、サプライチェーンの川下が主流になっているが、原料や製品そのものを多く海外に頼る日本であっても、環境負荷が一番高いとされる「調達」への対策が急務である。

2024年度は、国内のクリーンビューティー構築のための第1歩として。サプライチェーンの「調達」において布石を残す活動に重点を置きたい。

2024年度の主な活動予定

1月

●新企業会員制度スタート ●年会報誌公開と配信

4月

●3月学会発表に関する公開セミナー（予定） ●第7回サステナブルビューティー協議会開催

5月

●5/22 生物多様性の日 オープンセミナー（予定）

6月

●6/8 世界海洋デー オープンセミナー（予定）

7月

●小・中学生向けグローバルSDGs講座（予定）

10月

●独自認定制度発表セミナー（予定） ●第8回サステナブルビューティー協議会開催

11月～12月

●COP29、COP16参加&業界向け発表



口究まが費
しもす化を日
子含。粧リ本
をめ20品1全
進、24のド体
めま年費のサ
てたは、だたス
ま先は、だたス
い進、自考のナ
りの身のえひブ
まなのてとル
すアのてとル
プ研いつ消

りの感的日進グ時いん近
ま戦にし本んにまさ年化
せ略改て特でしはすプグ粧
んを革い有いん、がら口品
°持しまのま戦マ、イ1な
続、す市せ略1国チバど
可コ、場んがケ内エルど
能スこ構、海デに1で加
性トれ造こ外イ入んは工
をとらがれのンつが、産
進グをあによグて進グ業
めり抜るはう含きんりで
な1本と、にむたで1は

うーし会にまな達
現歩か課向ずタ成国
状がし題け企ツの内
がな、をて業子たの
あか課提、にポめク
りな題唱化おイ、リ
まか解し粧けん201
ず進決て品るト23
°まにきの個を23
な向ま環人増は年
いけし境やや、は
とてた、一し、様
いの、社般、タイ



代表理事 長井美有紀

サ
プ
ライ
チ
エ
ー
ン
改
革
に
向
け
て



Publisher :

Miyuki Nagai

Executive:

Miyuki Nagai
Kanae Shinozaki

当団体は、企業や一般の皆様からの基金で成り立っております。化粧品のサステナビリティ推進に必要なルールづくりや提言まとめなど一緒に行い、日本全体のサステナビリティ向上を達成しましょう。
ご賛同いただける方は、HPよりお問い合わせください！

Special Thanks:

Tetsuo Okawa
Miki Kubo
JWCS(Fumiaki Nagaishi)

発行・配布

一般社団法人 日本サステナブル化粧品振興機構(JSCF)
〒107-0061
東京都港区北青山1-3-1 アールキューブ3F
(2024年1月 オフィス移転しました)
<https://sustainable-cosme.org/>

ボーテ・ベルテ — Sustainable Beauty Magazine by JSCF

Beaute Verte 2024 Vol.3